

# トイトイトイ! toi toi toi!

ステージはそこにある

vol.04  
2026.03  
飯田文化会館  
情報誌

Iida Cultural Hall  
Information  
Magazine



## 学ぶ側から創る側へ。"音楽愛"を広げる新たな世代

オーケストラと友に音楽祭 若手実行委員

## ハーモニーの感動が、これからも人生を支えてくれる

飯田シルバーコーラス・かざこし

野口千英子 地域に根ざした物語を多彩な芸術表現で  
南信州から始まった表現者としての第二章

今田人形座 揺らぐともしびに包まれる 幻想の舞台「宵祭り ろうそく公演」

# toi toi toi!

vol.04

ステージはそこにある

何かに打ち込んでいる人、夢中になっている人って、とても素敵ですよ。まちだって同じ。

人々が力を合わせて何かに取り組み、楽しんでいるまちは外の人たちを引き付けるエネルギーを持っています。

飯田で行われる文化行事の多くが市民主体の実行委員会形式で行われているのは、全国的に見ても珍しいことだとか。

その背景には、人形浄瑠璃や地芝居に熱中し、公民館活動で学び合ったかつての伊那谷の人々の熱量が受け継がれているのかもしれない。

そして現代も。  
先輩から後輩へ、世代を超えて。  
文化を愛する心はしっかりと受け継がれています。

## INDEX

### TOWARD THE NEXT STAGE

オーケストラと友に音楽祭 若手実行委員

### CurtainCall いいだ文化の軌跡

飯田シルバーコーラス・かざこし

### AIIIDA わたしの視点

野口 千英子

### REPORT

今田人形座 宵祭り ろうそく公演

### REPORT

新しい文化会館整備検討状況

### IREPORT・NFOMATION

舞台芸術 担い手意見交換会  
令和8年度 飯田文化会館 主催共催事業

With





TOWARD THE NEXT STAGE >>>>>>

## 学ぶ側から創る側へ。"音楽愛"を広げる新たな世代 オーケストラと友に音楽祭～アフィニスのふるさと飯田音楽祭～ 若手実行委員に聞く

### 市民が創る音楽祭

飯田のゴールデンウィークは毎年、クラシック音楽にあふれます。市民が名古屋フィルハーモニー交響楽団(名フィル)と一緒に創り上げる「オーケストラと友に音楽祭」、通称「オケ友」のシーズンです。

飯田文化会館を主会場に、地元音楽団体や名フィルによるコンサートを連日開催。ホールでのコンサートのほか、りんご並木、商業施設、体育館などでもコンサートが開かれ、市民がクラシック音楽を身近に楽しめる貴重な機会となっています。企画運営は市民中心の実行委員会が担っており、まさに「手作り」の音楽祭です。

オケ友のもう一つの特色は、「学び」を大切にしていること。小学生を対象にした楽器体験「楽器とあそぼう」や、オーケストラで働く人たちにスポットを当てた「オーケストラで働く人たち」は、オケ友ならではの催しです。

中でも、アマチュア演奏家が名フィルの指揮者や団員から指導を受ける「音楽クリニック」は、この音楽祭の柱の一つです。令和7年は小学生から大人まで過去最多の309人が受講。3月から課題曲のレッスンを重ね、オケ友の「クリニックコンサート」で成果を披露しました。また、音楽クリニックとは別に年間を通して、演奏の基礎を学ぶ「基礎コース」も年2回行われています。



「音楽クリニック」の様子

### アフィニスの精神を次世代へ

オケ友の前史は平成元年、アフィニス文化財団が飯田市で「アフィニス夏の音楽祭」(アフィニス)を始めたときにさかのぼります。これは毎年8月に国内のプロオーケストラの若手楽団員が世界一流の演奏家から学ぶ、プロのためのセミナー形式の音楽祭でした。

平成20年、アフィニスは第20回を機に飯田市での開催を終了。これを受け、市民有志らが新たな音楽祭を模索し、アフィニスの精神でもあった「学び」から「市民自身が学べる音楽祭にしたい」と思い、市民が主体となり、クラシック音楽を「学ぶ」「楽しむ」音楽祭として「オーケストラと友に音楽祭」が翌年からスタートしたのです。

それから18年。クリニックで学んだ子どもたちが音楽の道に進んだり、地元音楽団体に活躍したりする例も増えています。そこで今回は、音楽への愛を次世代に伝えようとしている若手実行委員の皆さんにインタビューをしました。



## プロとの演奏はとにかく楽しい

### クリニック部会所属 西浦 遼 さん

にしうらりょう●平成11年、飯田市生まれ。東京で理容師の修行を積み令和5年に帰郷、実家の理容院に勤務。バイオリン奏者として飯田交響楽団に所属。地元ピアニストらとの共演も行っている。

私は3歳からバイオリンを始めて、小学生の時はアフィニスに地元演奏家として参加しました。高校の部活動では弦楽班に入ってオケ友の音楽クリニックにも参加しました。最初は一人での練習が好きじゃなくて、みんなと一緒に何かをやるのが楽しかったですね。

転機は、高校2年の時に参加した長野県高校オーケストラフェスティバル。同学年とは思えない演奏に「こんなにいい音が出るのか」と感動して、それからは練習に熱が入るようになりました。高校を卒業する時、飯田交響楽団の団長から「絶対に飯田へ帰っ

てこいよ、楽団での席は温めておくから」と言われて、東京での7年間はずっとそれが心に残っていました。

飯田に帰ってから入団し、オケ友では名フィルと飯田交響楽団合同の「いいなあオーケストラ」にも出演させてもらっています。プロとの演奏はとにかく楽しいですね。とても勉強になるし、客席も楽しんでくれているのが伝わってきて、会場が一体になるのが分かるんです。

私はオケ友実行委員会のクリニック部会に所属し、音楽クリニックの企画運営もしています。母校の後輩たちと顔を合わせるの

で、「飯田に帰ってきて一緒にやろう」と声をかけると、「絶対そうします」と答えてくれる後輩もいます。

最近は部活動がなくなるという話も聞きます。音楽人口が減りかねないこの時代、若いうちから音楽を身近に感じられるオケ友のような機会は、とても大切だと思います。



# With the



## 20周年に向け 若い仲間を増やしたい

### クリニック部会・オケ友音楽ひろばプロジェクト所属

### 宮澤 元彌 さん

みやざわもとや●平成12年、下條村生まれ、飯田市在住。パーカッション奏者として飯田市民吹奏楽団、下條村民吹奏楽団に所属するほか、他楽団への賛助出演も多い。飯田市立病院に臨床工学技士として勤務。

私は中学2年の時からパーカッションを始め、中学高校時代にオケ友の音楽クリニックを受講しました。名古屋の専門学校を卒業して地元に戻り、令和4年から音楽クリニックの「大人の吹奏楽コース」に参加し、さらに実行委員としてオケ友に関わっています。

オケ友は、3月から始まる音楽クリニックやゴールデンウィークの本番に加え、年2回の「基礎コース」などもあり、企画や準備するのは大変ですが、「楽しかった」と受講された方の声を聞くとうれしく思いますし、本番を全て無事に終えた時は大きな達成

感があります。

パーカッションは、誰に師事するかによって演奏法や曲の解釈に違いがあります。オケ友では名フィル打楽器奏者の3人の講師が、それぞれ違う視点から教えてくれるので勉強になります。また、プロの指導を受けると新たな表現力が身に付くように感じています。例えば指揮者の川瀬賢太郎先生は曲のイメージを伝える時に「ぬれせんべいのような」とか「酔っぱらいが電車の中で吐き気を我慢しているような」なんて表現をされます。言葉の引き出しが多彩です。

令和7年の音楽クリニックは受講者数が

過去最多となりました。そこで学んだ後輩が進学で飯田市外に出た後も「飯田に戻って音楽をやりたい」と思えるような環境づくりができればいいなと思います。実行委員会にも若い仲間を増やして、2年後の20周年に向けて企画に携わりたいです。



## 裏方の大変さ スタッフになって改めて実感

## 総務広報部会所属 飯島 ひかりさん

いいじまひかり●平成4年、飯田市生まれ。飯田病院で看護師として勤務。オケ友実行委員会には職場からの企業派遣として参加している。八分音符をかたどった水引ピアスがお気に入り。



小学校1年の時からアフィニスの親子向けコンサート「あいうえ音楽館」を観に行っていて、楽器に憧れを持ちました。本当はフルートをやりたかったんですが、小学校の金管バンドでトランペットを始めたら「ドハマリ」してしまって。高校からはクラリネットを始めて、高校3年の時に初めて音楽クリニックに参加しました。成果を披露する「クリニックコンサート」に向けて、必死になって練習したことを覚えています。終わった時はすごく達成感がありました。

そうした体験があったので、社会人になってからはアンサンブル・ヴィルトゥオー

ゾ吹奏楽団(飯田市)に入りました。楽団はコロナ禍の影響で解散してしまいましたが、その分、今はオケ友のスタッフとして音楽に関わせてもらっています。

私は飯田病院からの企業派遣という立場で、職場の先輩から実行委員を引き継ぎました。所属する総務広報部会では、パンフレットのデザインや広報の仕方をみんなで考え、当日は受付などを行っています。運営側になって改めて、この音楽祭がいろいろな裏方の人たちの苦労の上に成り立っているということを実感しました。

実行委員はこれからも続けていきたいと

思いますし、毎年オケ友の時期になると自分もクラリネットを吹きたくなります。来年こそは音楽クリニックに参加しよう…と思いつつ、自分の楽器を眺めるだけの日々がここ何年か続いているので、いずれクリニックに参加するタイミングをつかみたいですね。



## Orchestra

名古屋フィルハーモニー交響楽団 音楽監督・指揮者

川瀬 賢太郎さん

Interview

## 飯田の人たちは音楽の楽しみ方を知っている

名フィルの正指揮者になって以降、新型コロナウイルスで中止になった2年間を除いてゴールデンウィークは毎年飯田に来ています。自然豊かで空気がきれい。それにとても静かなので、勉強や楽譜の読み込みがはかどります。メンバーも毎年飯田に来るのを楽しみにしています。

音楽クリニックは朝から晩まで続くのでヘトヘトになりますが、その後においしい食事とビールが待っていると思えば集中できます。飯田は焼き肉が有名ですが、お寿司もいのお店がありますね。

飯田には市民の皆さんが音楽を気軽に楽しむ伝統がある。音楽クリニックに親子で参加する方もいて、その文化が脈々と受け継がれているのを見ると、本当に素敵な街だと思います。

日本は世界的に見ても音楽祭の多い国ですが、オケ友のような市民の皆さんによる手作りの音楽祭は多くありません。これからも飯田の皆さんが、音楽そして名フィルとますます友達になってくれるような音楽祭にしていきたいですね。令和8年は名フィル60周年なので、飯田でも記念にできるかと思っています。ぜひお楽しみに！



PROFILE | KENTARO Kawase

昭和59年、東京生まれ。平成19年、東京音楽大学音楽学部音楽学科作曲指揮専攻(指揮)を卒業。これまでに指揮を広上淳一氏などに師事。名古屋フィルハーモニー交響楽団では平成23年から指揮者、令和元年から正指揮者を務め、令和5年に第6代音楽監督に就任。卓越したプログラミングを躍動感あふれる演奏で聴衆に届け、海外でも活躍している。東京音楽大学作曲指揮専攻(指揮)特任講師。

Curtain Call

いいだ文化の軌跡

ハーモニーの感動が、これからも人生を支えてくれる

## 飯田シルバーコーラス・かざこし

令和7年6月1日に飯田文化会館ホールで行われた、飯田シルバーコーラス・かざこしの創立35周年記念交歓コンサート。平均年齢およそ79歳の皆さんは、力強い「大地讃頌(さんしょう)」や深みのある「マイウェイ」など、名曲を次々と披露して観客を魅了しました。

年齢を感じさせない美しい歌声は、毎週第2・4火曜日の午後に飯田文化会館で行っている例会での練習の成果。実行委員長を務めた鳴澤與(あたえ)さんは、「コロナ禍を挟んで10年ぶりの自主企画コンサートでしたが、精一杯できました」と充実の表情を浮かべます。

「かざこし」の創立は平成2年。高齢者の生きがいづくりを目的に、飯田市福祉課(当時)が主導して開講した「ハイカラ学校」のシルバーコーラス教室が前身です。ほかにワープロとエアロビクスの教室もありましたが、コーラス教室だけが「飯田シルバーコーラス」として独立し存続。

伊那谷文化芸術祭への出演や福祉施設への慰問演奏などを精力的に行うとともに、お花見会やクリスマス会、研修旅行などを通じて会員の親睦を深めてきました。



創立20周年を迎えた平成22年には団体名を現在のものに定め、会歌や記念誌を制作し記念コンサートも開催。一時期はたった1人まで減少した男性会員も徐々に増え、現在は女性会員合わせて55人になり、平成26年(2014年)から本格的な混声4部合唱が実現しました。

令和2年以降のコロナ禍では例会を開けず、同年に予定していた30周年記念コンサートも延期の末、中止に。さらに高齢会員の退会が相次ぐなど逆風にさらされましたが、それを乗り越えて、多くのゲスト団体を招いて35周年コンサートを成功させたのです。



## 飯田シルバーコーラス・かざこしの歴史

- 平成元(1989)年 11月  
ハイカラ学校開講準備会開催
- 平成2(1990)年 1月  
飯田人形劇場でシルバーコーラス教室開講式  
指導者:前島正平さん
- 平成3(1991)年 5月  
NHKテレビ出演
- 平成4(1992)年  
4月 飯田文化会館20周年記念音楽会に出演  
5月 初めての研修旅行
- 平成6(1994)年 5月  
初めて施設慰問演奏を行う
- 平成8(1996)年 4月  
初めてお花見会を開催
- 平成13(2001)年 4月  
指導者が吉原栄治さんに交代
- 平成17(2005)年 4月  
指導者が宮内宏さんに交代
- 平成20(2008)年 8月  
団体名を「飯田シルバーコーラス・かざこし」に  
改名することを決定
- 平成21(2009)年 1月  
会歌「かざこしの歌」が完成  
(作詞:鳴澤與さん、作曲:宮内宏さん)
- 平成22(2010)年  
1月 20周年記念誌発刊、20周年記念式典開催(飯田創造館)  
4月 20周年記念コンサート開催(飯田文化会館)  
8月 全国童謡サミット(in横浜)に初参加
- 平成25(2013)年 9月  
第1回華齢なる音楽祭に参加
- 平成26(2014)年 11月  
伊那谷文化芸術祭で初めて混声4部合唱の大曲に挑戦
- 平成27(2015)年 5月  
創立25周年記念式典、記念交歓コンサート開催
- 平成28(2016)年 4月  
指導者が市東典子さんに交代
- 令和2(2020)年  
3月~ コロナ禍により例会や総会を中止  
5月 30周年記念交歓コンサート延期  
10月 臨時総会で記念コンサートの中止を決定
- 令和5(2023)年 5月  
30周年記念誌を発行
- 令和7(2025)年 6月  
35周年記念交歓コンサートを開催

飯田シルバーコーラス  
かざこし

創立35周年記念 交歓コンサート



## 飯田シルバーコーラス・かざこしの皆さん

# ずっと歌い続けたい、 少しでも上達していきたい。

みやうち まさよ

**宮内 昌代さん** 写真左

令和7年度会長。令和5年入会。父は3代目指導者の故・宮内宏さん。昭和38年生まれ。

なる さわ あたえ

**鳴澤 與さん** 写真右

令和7年度顧問。平成12年入会。昭和15年生まれ。会長を3度務め、会歌の作詞も担当。

いちどう のりこ

**市東 典子さん** 写真中央

4代目指導者(平成28年～)。ほかに地域の合唱団や学校で指導。昭和25年生まれ。



一創立35周年記念交歓コンサートを振り返って

鳴澤 気持ち良かったですね。聞きに来てくれた長年の友人たちが「どんどんうまくなるじゃないか」と言ってくれました。本格的な混声4部合唱ができるようになり、レベルアップできたおかげだと思います。



令和7年度顧問 鳴澤與さん

宮内 会場の全員で「マイバラード」を歌った時は、客席の歌声がステージにも響いてきて心が震えました。

鳴澤 市東先生がいろいろな合唱団や学校に声をかけてくれたおかげです。

市東 歌う側も聞く側も一緒に楽しめる場を作りたくて。このために100人近くの小学生が集まってくれました。一体感が出て良かったですね。

宮内 会歌「かざこし」の3番に「柱きずいた先人の願い未来につなぎあい」とい

う歌詞があるんですが、今回のコンサートはまさにそれが花開いた瞬間だったと思います。

一合唱の魅力とは？

宮内 ほかのパートの人たちと歌声が重なってきれいなハーモニーが広がった時の感動は、何物にも代え難いと思います。

鳴澤 会の最高齢の92歳の男性は、「みんなと歌っていると楽しくて元気が出るから、体がしんどくなくても続けたい」と言っています。私も少なくとも90歳までは歌いたいですね。



4代目指導者 市東典子さん

市東 「かざこし」の皆さんは皆、年齢よりも若く見えます。

宮内 目が不自由のため盲導犬と一緒に参加している方もいらっしゃいます。何歳になっても頑張っている皆さんを見ると、私も元気をもらえます。

一これからの抱負や思いを。

宮内 一人一人がこれからも健康で歌を楽しんでいけることが第一。その上で、少しでも合唱が上手になりたいですね。



令和7年度会長 宮内昌代さん

鳴澤 本当にそう。どんなに歳をとっても、練習で上達するとうれしいんです。

市東 「かざこし」の皆さんは私の厳しい指導にもしっかりついてきてくれます。それに出席率がよく、練習の成果をきちんと共有できているのが素晴らしい。地区ごとの班体制もしっかりしていて、連絡網や交通手段の確保などで協力合っていますよね。

鳴澤 35周年をきっかけに、他団体との交流が盛んになりつつあります。令和6年には飯田西中学校の生徒さんたちとも交流して大いに刺激を受けました。一緒になって歌えば年の差なんて忘れてしまいます。それが合唱の良さなんですよ。

# 「歌いたい」その気持ちをかたちに

## 高陵中学校合唱クラブ

### 校長に直談判して発足

令和7年7月に駒ヶ根市で行われたNHK全国学校音楽コンクール(通称、Nコン)長野県大会の南信B予選。全8組のうち、飯田市から出場したのは2組でした。

そのうちの1組、高陵中学校合唱クラブは令和5年6月に発足。当時の1年生6名が「合唱部を作りたい」と、入学早々に校長に直談判。その結果、週1回のクラブ活動として認めてもらうことができ、同校にとっては合唱部が途絶えて以来の合唱団活動が始まりました。

指導するのは高陵中学校のOBで元教諭の塩澤哲夫さん。ピアノ伴奏は飯田シルバーコーラス・かざこいずはらでも伴奏を務めている何原弥生さん。お二人は、同校の活動支援ボランティアとして合唱クラブを支えています。



### 多くのステージ 仲間集めも工夫

発足当初6名だったクラブ員は現在13名になりました。練習は毎週水曜日のクラブの時間のほか、昼休みに有志で自主練習をすることも。発表の場はNコンのほかに学校の文化祭、伊那谷文化芸術祭、地域イベント、さらに自主的な発表会と、年10回近くに上ります。

クラブ長の村松祐佳さん(3年生)は、「仲間を増やすためにチラシを作って配ったり、昼休みの校内放送で自作の動画を流したりしました。歌っていると嫌なことも忘れて楽しくなれます。」また、2学期から加入した藤田紗夢さん(2年生)は「一人で歌うのも好きだけど、みんなと合唱するとすごくきれいでいいなあと。」と話してくれました。

### 新たなあり方のヒントに

塩澤さんは「生徒たちは進んで『これを教えてほしい』と言ってくれる。そうした積極性があれば合唱はどんどんうまくなれます。」と太鼓判。また、「ほかの中学校にも合唱をやりたい子はたくさんいると思うけれど、生徒の減少や指導者の不足が課題。学区を越えた受け皿ができればいいと思います」とも。

今年のNコン予選出場校の中には、複数校による合同合唱団もありました。部活動の地域クラブ化が進む中、生徒自らが設立し仲間を増やしている高陵中学校合唱クラブは、これからの部活動のあり方について大きなヒントと勇気を与えています。

(令和7年9月取材)



## 地域に根ざした物語を多彩な芸術表現で 南信州から始まった表現者としての第二章

さまざまな視点から南信州の文化を紹介するコーナー。今回は「南信州アートラボ」の主宰者として地域の魅力を生かした舞台制作に挑む野口千英子さんです。俳優、モデルとしてキャリアを重ねたのち松川町へ移住。一度は表現の世界から離れたものの、情熱を原動力に再び舞台と向き合い始めた野口さんに、南信州の文化や表現活動の可能性について聞きました。



### 一移住のきっかけは？

平成20年、結婚を機に夫の実家がある松川町へ移住しました。夫とは東京で出会ったので「結婚したら東京で一緒に暮らすんだろうな」と漠然と考えていました。ところが、交際中に「長野へ戻る」という話が出て。一緒に長野へ行けば、それまでのモデルや俳優の仕事を続けることは難しくなるだろうと思い、2年ほど迷いましたが、一緒に生きていくことを選び、引越してきました。

### 一暮らしはどう変化しましたか？

友達もおらず、見知らぬ土地に独りという孤独感がありました。車の運転免許もなかったため、まず自動車教習所に通って運転の練習から始めました。夫の実家が商売をしていたこともあり、未経験に近かったパソコンの操作も覚えて、事務や経理を習いました。とにかく仕事をこなすことが最優先でした。

### 一移住後、すぐに演劇活動を始めたわけではなかったんですね。

毎日過ごすのに必死でしたし、正直、この地で演劇活動ができるとは思っていませんでした。でも、どこかに「表現したい」という思いはあったんでしょうね。仕事に慣れた頃、友達づくりも兼ねて高森町の和太鼓グループ「心鼓毬彩」に加入しました。仲間と地域のお祭りなどのイベントに出演するうちに、自分の居場所が少しずつできていく感覚が生まれました。

### 一再び舞台に立ちたいという思いが動き出したのは、どんな瞬間でしたか？

きっかけはコロナ禍です。自宅で過ごす時間が増え、何気なく見ている人気テレビドラマで、かつて夫婦役として舞台で共演したことがある俳優が主演を務めていました。今や日本を代表する実力派俳優として第一線で活躍する彼の姿に刺激を受け「私もこのまま終わるわけにはいかない」と思ったんです。心の奥にしまっていた思いが、再び動き出した瞬間でした。

### 一その思いを現実の一步に変えたきっかけは？

ちょうどその頃、オール飯田ロケの映画「いつくしみふかき」に出演して

いた俳優・小林英樹さんと出会ったんです。食事会で意気投合して、小林さんが演出する「劇団 雅」の舞台を見にいき「飯田にもこんな熱量で表現活動をしている人たちがいるんだ」と心打たれました。その後、小林さんが立ち上げた演劇ユニット「陽のあたる教室」への加入を決めました。

### 一そこから活動が広がっていったんですね。

南信州の表現者が集まる「おぶすなアートプロジェクト」への参加が次の縁につながりました。そこで出会った音楽家の横前恭子さんに誘われ、中川村のカフェでのライブで共演することになり、恭子さんの歌に合わせ、中川村と松川町にちなんだ物語を作って朗読しました。その客席にいたのが、やはり「おぶすなアートプロジェクト」でつながった阿智村在住の声楽家・井原芙美子さんです。「野口さんって脚本もできるんだね」と声を掛けてくださり、阿智村の園原地区を舞台にした作品制作に携わることとなりました。

### 一舞台『園原のははき木～源氏物語 帯木～空蟬の巻』では、脚色と演出も手掛けていますね。

紫式部を主人公にした大河ドラマの放映を翌年に控え、ゆかりのある「ははき木」を題材にした舞台制作の話が阿智村で動き始めていました。実行委員会と相談の末「ここでしかできない舞台にしよう」と、演劇、ダンス、書道など異分野を融合させた舞台を作り上げたんです。この経験を通して、異なる文化の調和により唯一無二の世界が生まれること、その素晴らしさを実感しました。

### 一地域に根ざした作品づくりを続ける背景にはどのような思いがありますか。

園原の舞台制作を通して「この場所だからこそ生まれる表現」があると実感したんです。土地に眠るストーリーを掘り起こし、物語として立ち上げていく感覚を一度きりで終わらせたくなくて。その実現のために設立したのが「南信州アートラボ」です。

### 一その最初の取り組みが、舞台校舎で上演された舞台ですね。

飯田市座光寺地区にある麻績の里・舞台校舎の150周年記念企画の

[ vol.4 ]

# 野口千英子さん

表現者の視点  
から見る  
南信州

[ 写真 ]  
右



野口さんが手がけた地域を題材にした舞台「園原のははき木」の1場面

## 南信州は地域に根ざしたたくさんの「宝物」が当たり前のようにある場所

公募を新聞で目にして即座に手を挙げました。劇場以外の場所で舞台を上演することに以前から関心があったんです。ゆかりのある作品を作るため、校舎の歴史や麻績神社、元善光寺についても学びました。飯田で長年桜を研究され続けてきた桜守・森田和子さんからも話を伺い、舞台校舎の隣にある舞台桜が、地域にとって大切な存在であることを知ったんです。こうして生まれたのが演劇「さくらと舞台桜」です。この時は飯田での活動のきっかけとなった小林さんに脚本・演出をお願いし、地域の方向けに舞台出演オーディションも兼ねたワークショップと作品創作を実施しました。翌年(令和7年)には「地産地Show」という舞台の「作品」だけでなく、地元産山ぶどうワインなどの提供も交えた「場」として、一連の企画にしたことにより新たな手応えを感じられ、来場者にも好評でした。

一改めて、南信州の文化についてどう思われますか。

南信州には祭りや獅子舞、伝承、自然など、地域の「宝物」がたくさんあります。関わるほどに文化の豊かさを感じ、知れば知るほど好きになる。でも地元の方にとっては当たり前すぎて、気が付きにくいのかもかもしれませんね。だからこそ外からの目で受け取り、表現として立ち上げていくことが、私なりの恩返しだと思っています。

一今後、挑戦したいことは。

一つは令和9年上演予定の舞台創作プログラム「Discover8(ディスカバーエイト)」です。地域を巡り、暮らしたり祭りを体感しながら舞台を作る年間プログラムで、私が長年やりたかったことも重なっています。だからこそ、そのプロセスにしっかり関わっていきたくと思っています。

もう一つは、麻績の舞台校舎での作品を、地域の皆さんが輝ける場へと進化させ、この地の新たな楽しみの場と思ってもらえるように頑張りたいです。さらに、芸術、温泉、祭りや食などの地域資源と結びつけ、この地の個性が重なり合って生まれる特別な体験として提案していきたい。多くの人を引きつける魅力と可能性が、この地にはあると思っています。



PROFILE

野口 千英子

地域文化プロデューサー・俳優・表現ワークショップファシリテーター。横浜市出身、松川町を経て現在は飯島町在住。玉川大学で芸術、演劇を学び、卒業後は舞台を中心にCM、ドラマなど多方面で活躍。鴻上尚史



作・演出「コマ・エンジェル」をはじめ数々の舞台に出演し、確かな演技力で評価を重ねる。平成12年「東京きもの女王」に選出。平成20年、結婚を機に南信州へ移住。和太鼓など地域文化との出会いを経て、令和3年以降、飯田を拠点とする舞台活動に本格的に参画。演劇、ダンス、書など異分野を融合させた創作舞台作品「園原のははき木～源氏物語 帯木～空蟬の巻」では脚色、演出も担当。令和6年から「南信州アートラボ」主宰。土地に根ざした表現を通じ、人と人、地域と物語をつなぐ活動を続けている。松川町地域展開(部活動)「松川CLUB」にて表現ワークショップも担当。

揺らぐともしびに包まれる 幻想の舞台

## 今田人形座「宵祭り ろうそく公演」

〔取材：文〓平松優子〕

江戸時代の舞台に  
思いをはせて

まちが夕闇に沈む頃、舞台前の和ろうそくにひとつ、またひとつと炎がともされます。令和7年10月11日、今田人形の館（飯田市龍江）で上演された「宵祭り ろうそく公演」。平成2年から大宮八幡宮秋季例祭の宵祭りとして奉納されてきたこの公演は「照明器具のなかった江戸時代の舞台に思いをはせてほしい」という思いを背景に、和ろうそくを用いた独自の演出が人気を集めています。

電気の照明が3割ほどにまで落とされ、第一幕「戎舞」が始まりました。庄屋宅を訪れた恵比寿さまが地区の福を祈りながら神酒を酌み交わし、最後に沖で鯛を釣り上げるという招福的一幕です。メジャーリーガー大谷選手の話など時事を織り交ぜた口上に客席から笑いが生まれ、ともしびに照らされた人形の動きが物語を軽やかに彩りました。

続いて、母子の情愛を描く「傾城阿波鳴門 順礼歌の段」、安珍清姫伝説による「日高川入相花王 渡し場の段」を上演。炎の揺らぎが人形の表情に陰影を与え、所作のひとつひとつに感情が宿ります。三味線の響きと太夫の語りが重なり、観客は物語の世界へと引き込まれていきました。

最後の「伊達娘恋緋鹿子 火見櫓の段」では照明がすべて落とされ、和ろうそくのともしびのみの世界に。白い人形の顔は炎に照らされて生命感を帯び、三人の人形遣いが生む緻密な動きが豊かな感情を浮かび上がらせます。恋心ゆえに罪を犯す決意を固めたお七の思いが光と影の間から迫り、観客は息をのんで見入りました。

光を極限までそぎ落とした舞台だからこそ感じられるものがあります。320年以上受け継がれてきた今田人形の息づかいが、静かに深く心に残る夜となりました。



今田人形座 座長  
澤柳 太門 さん  
TAMON Sawayanagi

## 守り継ぎたい地域の「宝物」

飯田市龍江に伝わる今田人形は、江戸時代から320年以上続く伝統的な人形浄瑠璃芝居です。1704(宝永元)年、大宮八幡宮の祭礼に賑わいをもたらしたいと村人が資金を出し合い、当時大阪などで隆盛していた人形芝居の道具を取り寄せたことが始まりと伝えられています。当初は外部から人形遣いや三味線奏者を招いていましたが、地域に滞在した人形遣いの指導で地元の人材が育ち、明治21年には今田人形座を結成。他村へ出張興行に呼ばれるほど人気を博しました。

第二次世界大戦や近代化の影響で団員が4人にまで減少するなど存続の危機もありましたが、昭和27年に村長・木下仙(せん)さんが中心となって龍江公民館人形部を立ち上げ復興。地域の厚い支えのもと受け継がれ、昭和50年には国選択無

形民俗文化財に指定されました。

今回のろうそく公演について、座長の澤柳太門さんは「和ろうそくの揺れる炎が独特の雰囲気を生みます。30年以上続くこの『ろうそく公演』は、今田人形だけの特権だと自負しています」と語ります。

技芸を磨き続けることに加え、長く受け継がれてきた伝統を次代へどう継承するかも重要な課題です。澤柳さんは「苦しい時代も途切れず続いてきたのは、座員はもちろん地域の皆さんの情熱があったからこそ。今田人形は地区の『宝物』。300年以上続いてきたこの歴史を、次の世代にも受け継ぎ、その先の一ページを綴ってほしいと願っています」と力強く話しました。

地域の情熱と、芸を守り続けてきた人々の思いは、今もこの地に静かに息づいています。



令和7年  
11/27(木)

第13回 整備検討委員会 「飯田ひろば」実現のための基本方針案が確認されました

「新しい文化会館の整備に関する基本構想」で生み出されたものを、これからの飯田文化会館の基本理念とすること、施設整備については「まち」全体で「飯田ひろば」が実現できるように機能を分散整備すること、文化活動を止めないように急務である現飯田文化会館の改修に着手し、小ホール→中ホール→大ホールを段階的に整備していくことなどが示されました。

これからの

飯田文化会館の基本理念

市民とともに、文化を育み「みんなが集い、創り、伝える、感動の飯田ひろば」の実現を目指します

基本理念を実現するための5つの基本方針

- 集う** さまざまな方が日常的にも集い、交流できる場を充実させます
- 観る** 心が満たされる鑑賞の場を確保します
- 創る** 飯田ならではの舞台芸術を創造し、支援します
- 伝える** 舞台芸術活動を促進し、次世代へ伝えます
- 育む** 舞台芸術の演じ手や支え手を発掘し、育成します



飯田ひろばの概念

飯田市全体を「飯田ひろば」に！

「飯田ひろば」とは、人々が自然と集い、楽しさや喜びを共有でき、新しい動きが起きる「空間」です。

飯田文化会館を拠点として、市内に分散している文化施設においても文化活動や舞台芸術活動が行われます。

市内のあらゆる場でこのような活動が行われている飯田市全体が「飯田ひろば」です。

人々は舞台芸術や文化活動に触れ、楽しみや喜びを感じながら生活し、市内では誰もが集い、創り、伝える活動がいつも繰り広げられ、ワクワク！ドキドキ！が生まれることを期待します。



## 整備方針

- 「まち」全体で「飯田ひろば」が実現するように機能分散整備します。
- 文化活動を止めないようにまず現飯田文化会館の改修に着手し、続いて小ホール→中ホール→大ホールと段階的に整備していきます。
- 限られた財源を効果的に活用するため、複合化※を基本に施設整備を行います。

※複合化=異なる目的や機能を持つ複数の施設を一つの敷地や建物に集約させること

## 整備方針の考え方

### ◆ 「飯田ひろば」を1つの館で実現しようとする場合の課題

- 昨今の建設費の急騰により多額の財政負担が見込まれます。
- 広大な敷地を必要とし、適地が限られます。

### ◆ 分散整備のメリット

- 各施設に特色や機能を持たせることによって多様性・発展性が期待できます。
- 利用者の間口や選択肢を増やすことができます。
- 市内複数の箇所でにぎわいが施設周辺へにじみ出ます。

### ◆ 必要な視点

- 分散整備は費用総額が増加する可能性が高いため、複合化を基本に検討します。
- 施設整備と併せて、拠点間を結ぶ交通機能(公共交通ほか)の検討も必要となります。

## 整備手順

### 現飯田文化会館 長寿命化改修

- 「新しい文化会館の整備に関する基本構想」を踏まえて実施
- 舞台芸術活動の継続を重視し、休館期間を最小限
- 目標使用期間は最大20年

#### 小ホール機能 (100人程度)

旧飯田市公民館跡地に検討されている「(仮称)飯田こども広場」に整備

#### 中ホール機能 (500人程度)

鼎文化センター周辺に構想されている「鼎複合施設」に整備

#### 大ホール (1000人程度)

現飯田文化会館を改修し使用する間に新たな大ホールの整備のあり方を再検討。現時点ではリニア駅周辺が候補地

最大20年

## 整備検討委員の意見 (抜粋)

- 文化活動を止めないことを前提に改修することは大賛成。今後の人口推計を考えると、1カ所への整備が一番いいとは思いますが、現実問題を考えると分散整備も仕方ない。われわれが議論してきた「飯田ひろば」の構想を20年後に生かしてほしい。
- 社会情勢の変化を踏まえて、極めて現実的な内容と理解した。既存の施設が「人を育み、まちを育み、活力を生み出す」機能を十分に発揮できていない。そのためのソフトウェアについて今からしっかり知恵を絞り、「飯田ひろば」の機能を先取りしていく必要がある。
- ホールはぜひ飯田市の直営で管理運営してほしい。文化活動にしっかり予算をつけて、ここに住んでいる市民の幸せになる施設を考えてほしい。
- 無い袖は振れない状況になったことを皆理解していると思う。大ホールの整備が20年後であれば、逆にしっかり考えられるチャンスでもある。3つの施設をどう有機的に結びつけるかが一番の課題になる。飯田は各地区の公民館がしっかりしているので、文化会館の事業と結びつけられるのではないかと。文化施設の敷居を下げるために、誰でも立ち寄れるフリースペースを作ってほしい。
- 飯田文化会館の改修は早急にやってほしい。新施設の用地取得費用をできるだけ抑えて設備にお金をかけてほしい。運営に関する人材育成を今から早急にしっかりやってほしい。
- 分散配置は現実的だと理解する。中ホールや各地域の公民館について、地域移行していく学校の部活をどう取り込んでいくかを考える必要がある。大ホールについては、今後の人口を考えると、分散させることがいいのを含めて検討してほしい。建物を作るより文化施設と文化のマネジメントが重要だと思う。利用する側にも問われていくことが、大きな課題として感じた。
- 分散型になれば、規模や立地で選択肢が広がるし、その地域の誇りにもつながると思う。こどもたちのことを考えると、それぞれの場所で集うことができるのは、こどもたちの居場所を考えると大事な視点だと思う。
- 説明のあった「ひろば」や「分散」の概念が、これまで議論してきた概念だろうか。夢をもって議論してきた委員の皆さんの思いを考えると、もう少し原点に戻った概念のあり方があるのではないかと。都市構造の改善は大事だと思うが、メリットとデメリットがある。

## 学識委員の感想



明治大学教授/博士/一級建築士  
米国公認都市計画家  
ささき ひろゆき  
佐々木 宏幸 委員

ここ1年間で大きな状況の変化が起きたことを理解した。重要なのは、整備検討委員会で作成した基本理念・基本構想の内容が実現される基本計画に向かっていくかどうか。

分散配置は基本理念にも合っているし、中心市街地、アップルロード、リニア駅という重心都市構造にホールを段階整備する方針も説得力がある。やり方次第では集中配置よりも大きな波及効果が見込めるのではないかと。

一方で、飯田市の都市構造改善のためにどう空間づくりをしていくのか、また管理運営の負担増が複合化によってどのように解決していきけるのかを考えていくことになる。都市構造の改善やどう実現性を検証していくかが重要だ。



竹田市総合文化ホールグランツたけた(大分県)チーフプロデューサー  
元 上田市交流文化芸術センター(サントミュージーゼ)プロデューサー  
おざわ おうさく  
小澤 櫻作 委員

現飯田文化会館の改修に当たっても「文化活動を止めない」という点に感銘を受け、安心した。

コロナ禍の例のように、一度止まると再始動が難しくなってしまうのが文化活動。厳しい外部環境のために全国的にもホールの建設計画が頓挫している状況がある中で、分散型・段階整備で基本理念を実現するんだというメッセージは心強い。

一体整備ができないのは残念だが、全国を見ても社会状況は本当に苦しい。基本理念を実現させていくための活動がスタートすれば、飯田のまち全体が輝くだろう。

## Report 舞台芸術 担い手意見交換会

令和8年1月29日と2月9日の2日間にわたり、「舞台芸術 担い手意見交換会」を開催しました。「新しい文化会館の整備に関する基本構想」の基本方針である「育む」をテーマに実施しました。

参加者は飯田文化会館情報誌「toitoitoy」で紹介してきた団体・個人の中から14名。管弦楽、伝統芸能、人形劇、演劇、ダンスなど多様な分野の担い手が集いました。意見交換では、メンバーの高齢化や後継者不足、学校で舞台芸術に触れる機会の減少、稽古場不足などの課題が共有される一方、若手の主体的な挑戦やSNS活用、子ども頃に体験することの大切さといった前向きな事例紹介や意見が出されました。

分野を越えて思いを交わし、今後の連携と継続的な対話につながる一歩となりました。地域文化の未来をともに考える、貴重な時間となりました。



## 令和8年度 飯田文化会館 主催共催事業

令和8年3月現在

4月	人形劇定期公演	11月	にこにこステージ vol.77
5/3-6	オーケストラと友に音楽祭2026	11月の毎日曜	第40回 伊那谷文化芸術祭
5/17	オーケストラと友に音楽祭 「基礎コース」	12月	森のぼかぼかクリスマス
6/14	コンサートア・ラ・カルト vol.84「フレッシュ・コンサート」	12月	コンサートア・ラ・カルト vol.86「クリスマスコンサート」
5月	人形劇定期公演	12月	人形劇定期公演
7月	森のかみしばい劇場	1月上旬	初春を寿ぐ竹田人形館
7月中旬	いいだ人形劇フェスタ2026「プレフェスタ」	1月	人形劇定期公演
7/30-8/2	いいだ人形劇フェスタ2026	2月	りんごっこ劇場
8月	にこにこステージ vol.76	2月	保育士人形劇研修会
9月	コンサートア・ラ・カルト vol.85「秋の彩コンサート」	3月	にこにこステージ vol.78
9月	人形劇定期公演	3月	人形劇定期公演
10月	ダンボール獅子舞ワークショップ	調整中	第47回おいでなんしょ寄席
10月	人形劇定期公演	通年	人形劇講座(初級コース・サポートコース・ユースクラブ)
10月	飯田信用金庫presents 第23回 萩元晴彦ホームタウンコンサート	詳しくは、飯田文化会館のウェブサイトをご覧ください	

情報誌のタイトル「toi toi toi(トイトイトイ)」。幸運や成功を祈るドイツの「おまじない」で、世界中の舞台で使われている言葉です。開演直前に誰もが緊張している中、舞台上や舞台袖で「うまくいくよ!」「大丈夫!」と、仲間の成功や幸せを祈り「toi toi toi」と声を掛け合います。

このタイトルには、「to i」愛の方へ、私(I)の方へ、飯田(IIDA)の方へ、人の方へ、という意味も込められています。

新文化会館整備検討委員会やワークショップで出された「みんなが(誰もが)集う」「ワクワク感」「楽しむ場」「飯田ひろば」の実現を願い、みんなで共有できる掛け声としてtoi toi toi!

掲載している記事の動画を飯田市の公式YouTubeチャンネルにて公開中です。ぜひご覧ください。



飯田文化会館 情報誌 toi toi toi ! 4号

2026年3月発行

制作 | 飯田文化会館

〒395-0051 長野県飯田市高羽町5丁目5-1

TEL. 0265-23-3552

企画・編集 | toi toi toi ! 制作チーム

取材・文 | 平松 優子 今井 啓

写真 | 中島 拓也

デザイン | 北林 南 (合同会社 伊那谷サラウンド)

イラスト | オリハラ ケイコ